

随泉寺寺報

2001 年 4 月号
第 369 号

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺
春季永代経法座
講師 妙国寺住職 斯波 徹真師
講題 声に聞く

芸予地震御見舞申し上げます。

3月24日午後3時半頃、ゴーという地響きとともにガタガタという大きなゆれ、芸予地震発生です。私は西長者原の集会所が新築され、そこにお仏壇を迎えられたので、入仏法要にお参りしていました。最初は山くづれかと思いました。やはり九年前の裏山がくづれたのを、思い出したからでしょう。やがて地震だというのがわかってから、もう収まるか、もう収まるかと思いつながら時間の長かったこと、三十秒前後だったと思いますが、どうなるのかが、解らないというのは不安なものです。しかし集会所の入仏法要ですから20～30名の人と一緒に。その点 恐怖心というのはあまりありませんでした。口々に『大きいぞ、これはすごいぞ』という言葉は聞こえていましたが。やがてゆれが納まってから、みんな自分の家が心配になりました。私も本堂が心配になり、急いで寺に帰りました。お陰様で本堂はほとんど無傷で、どこも痛んでいませんでした。これが修復前だったらどうなっていたか、今から考えても怖い気がします。皆さんがたのお家は如何でしたか。屋根の棟の瓦がくづれたお家、壁が落ちた家、大手堀のくづれたお家、墓が倒れたお家、それぞれご心配なことと、御見舞もうしあげます。今まで広島は災害がないと過信していた分だけショックが大きいようです。又自然の力に圧倒されたことです。

4月の法座予定

4月13日昼席午後1時より………春季永代経法座
4月13日夜席午後8時より………出張法座 西平原 住吉昭三様方
4月14日朝席午前10時より………春季永代経法座 終り次第婦人部総会

桜の花と私

おおぞら かがみ ごと
大空の 鏡の如き さくらかな (高浜 虚子)



花といえば桜のイメージがありますが『万葉集』では梅をさしていました。有名な西行の「花の下にて 春散らん その如月の 望月の頃」ではあきらかに梅の花でしょう。如月は2月の事ですから、桜は咲いていません。桜が花の代名詞となるのは、江戸期になってからと思われまふ。それにしても 桜の花は、

日本人にとって特別な花のように 思われまふ。それは花の見事さもさることながら、散る時の美しさも、共感を呼ぶのでしょ。またぱっと咲いて ぱっと散る生き方にも、心寄せるところも あるのでしょか。今年も 桜の季節に相次いでお浄土に還えられました。出来ることならば、寒さの厳しい冬や、夏の暑さの日よりも、花々が咲いて美しい桜の季節に、お浄土へ返りたいというのは、誰しもが思うことではしょ。『散る桜 残る桜も 散る桜』桜を見るたびに 亡くなられた方の事を思ひだし、悲しい思いをしておられる方も多いことではしょ。しかしやがてまちがいなく 私の行く時もくるのです。桜は私の人生を写してくれる花のようだと、高浜虚子は詠っています。厳しい冬を耐えて、やがてやってくる春を待ち望み、時がきたならば、力いっぱい大空に自分を誇示する。やがて春の嵐や 雨が降れば、惜しまれながらも、ぱっと散って行く。まさしく日本人好みの生き方かもしれません。しかし人生は、そう思うようには いかないものです。苦しくても、見苦しくても 歯を食いしばって 生きていかねばなりません。その私に 私の相・心を映して下さるのが、真実の法であります。苦しい人生を生きぬく力を、与えてくださるのが、仏法であります。私に 苦しさ、悲しさを見通して懸けていてくださるのが 弥陀の本願です。「どんなことがあっても私がいるよ」と呼びかけていてくださるので



縁起をかつぐ

どんなに健康そうに見える人でも、身体にどこかしら弱いところ、悪い所のない人はいない。他人から見ると病気とはまるで縁がないように見えている人でもどこかには心配なことを持っているのである。

慢性の胃腸弱、アレルギー、便秘、痔疾、水虫、などなど、不快ではあるが、生命に別段異常はないので、根治しないまま それらと付き合っている人は、少なくない。そしてこのようなからだの弱い所は、自覚されやすく、その対処も、比較的対処も施しやすい。しかし、それに対して、心の弱いところやストレスは 目に見えず、自覚されないまま、放置されることが多い。

それらの心の負担は、およそ二つに分けられる。

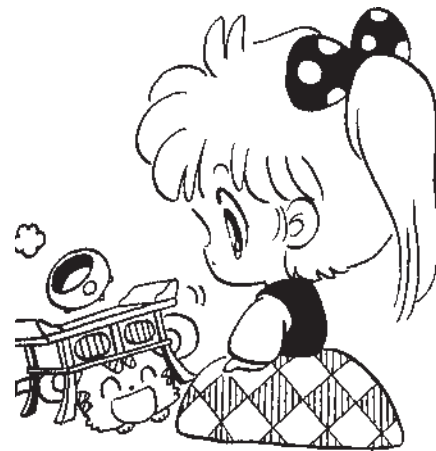
過去から蓄積してきている【不満】と、未来へ向かっての漠然とした【不安】である。

【不満】は鬱積であり、その上手な発散の場所と方法は、それなりに工夫されてきた。伝統的に、経験的に。それは夜の盛り場であったり、旅であったり、又 歌を歌うことであったり、スポーツであったり、家庭のぬくもりであったりした。

未来への【不安】は健康にたいするものであったり、経済的な不安であったり、老後の不安だったり

する。これに対して占いやまじないを流行らせ、町や村の易者や占い師、また祈禱師など、最近ではテレビやインターネットも含めて、まじめなもの、科学的なもの、インチキなもの、あぶないものを氾濫させ、またそれらがそれなりに、役割を果たしている。これらの代表的なものが【縁起かつぎ】である。私達のとうてい手に負えないもの、どうしようもないものに対して、漠然とした不安を解消する？ために、何らかの意味付け、正当付けを行なう。そして心の安定を図るのである。

例えば今回の大地震である。被害の中で多かったのが、仏壇のなかの仏具の倒壊である。また お墓の倒壊も多かった。これは単に仏具も、お墓も、構造上非常に倒れやすいものであるから、倒れても当たり前なものである。にもかかわらず、先祖が怒っているとか、山の神が怒っているという始末である。先祖を大事にしなかったからとか、自然を破壊したからという、意味付けを行なって、どうしようもない事の【不安】の解消をしようとするのである。そしてなんの根拠もない意味付けをして その共通項を縁起が悪いとするのである。先祖や自然を大事にしても、被害に会うこともあれば、粗末にしても、難を逃れた場合もある。



お知らせ

今月の永代経は4月13日・14日に勤めます。お間違のないように。4月13日の夜席は出張法座で西平原の住田昭三様方です。御誘いあわせの上お参りください。

14日の朝席の終了次第 婦人部の総会を開催いたします。会員の方は是非とも御出席下さい。

来月5月14日・15日の降誕会法座の15日の朝席の終了後に平成11年・12年に生まれられた子供さんの初参式を行います。近所の方で該当の子供さんがおられましたらお知らせください。御案内いたします。

5月9日～11日までの京都研修旅行の参加者を募集しています。大谷本廟の納骨や本山での帰敬式(おかみそり)も予定していますのでまだ納骨や、おかみそりを受けておられない方は是非ともこの機会に奮って御参加下さい。また、京都御所にも特別参観を申し込んで許可が宮内庁より届いていますので、楽しみにしておいてください。本願寺も今、御影堂を260年ぶりに屋根などの平成代修復を行っています。これも見れたらいいなと思っています。

お浄土に帰られた方々

釋 慧幸	大室 幸子様	平成13年1月5日	58歳	望ヶ丘
釋 幸信	小田 幸子様	平成13年1月11日	47歳	五日市
釋 精進	長行 進様	平成13年1月17日	86歳	上平原第2
釋 宝相	有田 里枝様	平成13年1月27日	78歳	中野2丁目
釋 重誓	品川 シゲ様	平成13年1月27日	101歳	上平原第2
釋 一念	久保 乙一様	平成13年1月28日	83歳	上平原第2
釋 行進	前田 進様	平成13年2月1日	59歳	荒野
釋 雄信	星川 英雄様	平成13年2月6日	64歳	大阪
釋 善念	神谷 善次様	平成13年3月3日	70歳	中須賀
釋 広法	川本 アヤコ様	平成13年3月9日	84歳	上平原第1
釋 殊勝	弘中 イサノ様	平成13年3月16日	87歳	瀬野川団地
釋 静明	竹田 シツヨ様	平成13年3月23日	94歳	平原西
信明院釋本義	佐久間 義明様	平成13年3月27日	80歳	東長者原
釋 寂静	上村 キミ様	平成13年4月3日	90歳	瀬野川団地
釋 殊勝	北尾 玉枝様	平成13年4月5日	87歳	出宮